

県総合文化芸術館

来年3月29日開館

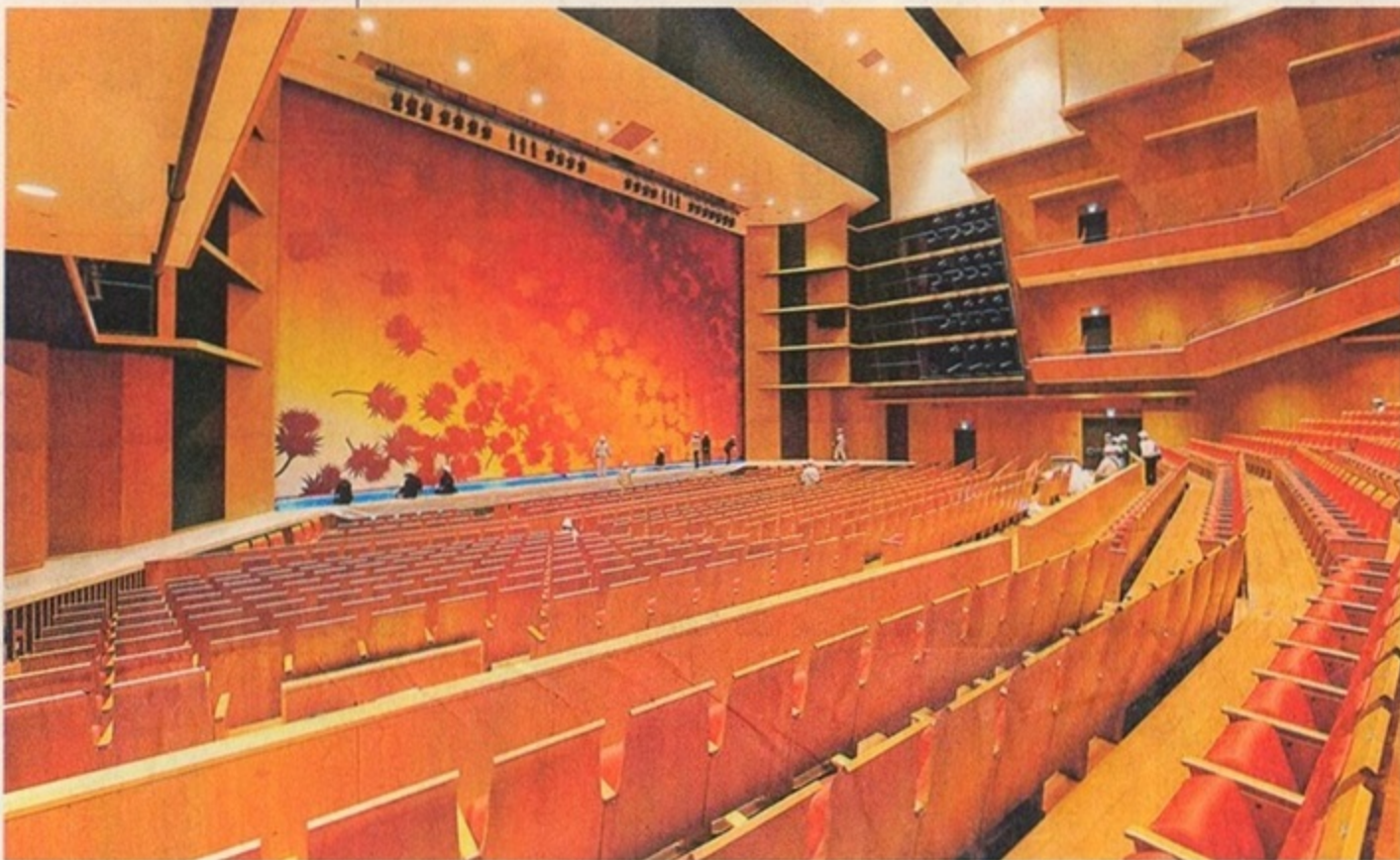
県は9日、山形市のJR山形駅西口に整備している県総合文化芸術館の開館日を来年3月29日とすると発表した。ほぼ予定通りに工事が進み、今年12月1日のプレオープンでは、本館で

一般市民も参加できるお披露目式を開く。式では大ホール（2001席）や1階ロビーなどを公開するほか、山形交響楽団芸術総監督の飯森範親さんの指揮で山響の演奏会を

開く予定。開館の際には1階のショップとレストラン・カフェスペースもオープンする。

同芸術館は地上5階、地下1階で延べ床面積は約1万6千平方メートル。山形市七日町3丁目にある「やまぎんホール」（県民会館）の代替施設の位置付けとなる。

（近岡国史）



山形市のJR山形駅西口で建設中の県総合文化芸術館が完成に近づき、大ホールに県産スギ材や米織を採用したいすなどがお見えした。29日には県の花・紅花をモチーフにした緞帳

緞帳「『紅』-BENI-」も設置され、全容を現した県総合文化芸術館の大ホール
＝山形市（撮影・色摩高幸）

「『紅』-BENI-」の設置も完了した。

県によると、同館の建物工事進捗率は7月末現在で95%。今月中にホールのいす設置を終え、9月15日に建物の工事が完了する予定。外構工事を進めながら12月1日にプレオープン、来年3月29日に開館する。

緞帳は、山形市出身の工業デザイナー・奥山清行氏の原画を基に、山辺町のじゅうたんメーカー・オリエンタルカーペット（渡辺博明社長）が製作し、山形銀行が県に寄贈した。県産紅花も染料に利用している。

この日午前、同館に幅22尺、高さ13尺、重さが1・3トある緞帳が到着。20〜30人がかりで慎重に運び込んで昇降用の棒にくくり付け、ブラシで毛並みを整えながら少しずつ上昇させた。約2時間後に全体が姿を現すと、鮮やかな色彩が木のぬくもりあふれる空間に広がった。作業を見守った渡辺社長は「県産紅花の色をはじめグラデーションに注目してほしい」と話していた。

（近岡国史）

新型

コロナ

拍手のないコンサート、声援が聞こえないバスケットコート、卒業式では後輩からの贈る言葉がもらえない。14日に県内で行われたイベントや式典では、新型コロナウイルス感染症の予防対策が講じられ、通常の雰囲気から一変した会場では「当たり前」の日常が失われた」との声も聞かれた。

＝1面に関連記事

無観客 失われた日常

久々勝利も 漂う寂しさ



無観客で試合が行われ、会場にはボールをつく音などが響いた
＝天童市・県総合運動公園アリーナ

B2・ワイヴァンスホーム戦

天童市の県総合運動公園アリーナで行われたバスケットボール男子・Bリーグ2部東地区のバスラボ山形ワイヴァンスの試合は無観客となった。背中を押すフースター(ファン)の声が届かない中、選手は静かなコートで集中し勝利を収めた。＝19面に関連記事

山形のホーム戦。普段であれば一つ一つのプレーに沸き、熱狂に包まれる。この日は選手のほかに、チーム関係者や報道陣の姿しなく、コートを取り囲む可動式の座席も用意されなかった。がらんとした会場では選手の息づかい、ドリブルのボール音、「キユ、キユ」とシューズがこすれる音が響いた。久々の勝利を手にした山形だが、ファンの不在で一抹の寂しさも。チーム関係者や選手らは「無観客での公式戦は初めての経験」「やはりファンがいた方が力は出る」と話していた。試合は15日同所であり、動画配信サービス「パスケットLIVE」で無料中継される。(斎藤健太)

緊迫の演奏 2万人超視聴

山響定演 無料でライブ配信

山形交響楽団の第283定期演奏会は、山形市山形テルサで無観客で開かれた。静寂に包まれ、信された。



山響常任指揮者の阪哲朗さんは「即興性では影響があるが、(ネットを通じて)普段聴きにくくなることのできない人にも山響の演奏が届けられる。守りに入らず普段通りにやるだけ」とステージに向かった。

静かな会場では、指揮

山形交響楽団の定期演奏会はインターネットでライブ配信された
＝山形市・山形テルサ
(撮影・色摩高幸)

者の息づかいやステップの音、弦を押しやる指使いまでが伝わってきた。チャイコフスキーのバイオリン協奏曲では、ソリスト神尾真由子さんによるカデンツァ(即興演奏)の繊細さが際立ち、オーケストラは集中力を高めていた。

ライブ配信ではアクセスが集中し、接続しづらい時間帯もあったという。最大で2万人超が視聴した。公演の様子は後日、クラシック専門サイト「カーテンコール」で視聴できる。(伊藤律子)

無観客で行われた山形交響楽団の定期演奏会＝山形市・山形テルサ

「危機感持った対応を」

県民ホール開館イベント延期

県が29日に予定していたやまぎん県民ホール（県総合文化芸術館）の開館イベントの延期を決めた27日、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点で、県選出衆院議員や県議会から記念式典などの開催を危ぶむ意見が出ていた。「いろいろな方の意見を踏まえ、苦渋の決断」。吉村美栄子知事は同日午後6時すぎ、開催日が間近に迫る中での方針転換をそう説明した。

＝1面に関連記事

県選出の自民党衆院議員3氏は同日午後1時半ごろ、開館記念式典を延期するよう吉村知事に申し入れた。加藤鮎子県連会長によると、東京の衆議院会館で遠藤利明、鈴木憲和両衆院議員と共に県の対応について協議。加藤会長が「3人が共有している問題意識」として、電話で直接、吉村知事に延期を要請した。理由は▽全国で感染者

新型

コロナ

がイイベントを主催するのはメッセージとしても誤っている」とし、「県内で感染者が出ていないとはいえ、県には危機感を持った対応をしてほしい」と話した。

県のコロナ対策の現状

県選出衆院議員、県議会 開催危ぶむ声

を聞くため、同日午前に臨時で開かれた県議会の議会運営委員会でも、各委員から開催自体を疑問視する意見が相次いだ。記念式典やコンサートの感染防止対策を説明した県に対し、ある委員は、首都圏で今週末に不要不急の外出自粛要請が出ている状況だとし「コロナ対策で重要なのは県民の理解と協力。式典開催により山形県では『緩み』が生じてしまうのではなか」と強調。別の委員は「県として自粛を段階的に解除するというメッセージを込めたイベントなのか、まだまだ手綱を締めていくという考えなのか」と述べ、実施目的があいまいだと指摘した。（本紙取材班）



県総合文化芸術館の開館イベントの開催時期について疑問視する意見が相次いだ県議会運営委員会＝県議事堂

談話室

▼▽世界的ジャズピアニスト
おぞねまじと
小曾根真さんと山形交響楽団
が練習を始めたのは27日の昼
すぎだった。曲は、本県の最
上川舟唄をモチーフに小曾根
さんが作曲したピアノ協奏曲「もがみ」
である。2日後に公演を控えていた。

▼▽「国民文化祭・やまがた2003」
で初演された曲だ。今回、山形市のやま
ぎん県民ホール（県総合文化芸術館）の
開館記念に合唱入りの新版を披露する予
定だった。3楽章構成の最終楽章まで練
習が進んだ夕刻、事務方が舞台に現れ伝
えた。急に延期が決まりました、と。

▼▽多くが呆然^{ぼうぜん}とする中、ある楽団員が
楽譜を手に立ち上がった。「最後までや
りませんか」。ピアノソロの部分が残さ
れていた。小曾根さんが本番同様の熱量
でソロを弾き、オーケストラも加わって
全曲が終わると楽団員から自然に拍手が
湧き、しばらくやまなかつたという。

▼▽昨今の緊迫する状況下では、延期は
やむを得なかったのだろう。一方で安倍
晋三首相が28日、記者会見で述べたよう
に「文化の灯は絶対に絶やしてはならな
い」のも事実である。新型コロナウイルス
感染症が落ち着いた後はぜひ、満員の
聴衆と共に白熱の演奏を堪能したい。